

施策番号 4-1-2	施策名 消防・救急の充実	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり			
		政策名	安全・安心に暮らせる生活環境づくり			
	主管課	芽室消防署	課長名	松久哲也	内線	62-5377
	施策関係課	総務課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
災害の拡大防止と、緊急時の迅速かつ的確な対応に向けた備えをすすめます。		町民、消防・救急体制		・予防意識の醸成と、災害・緊急時の迅速かつ的確な支援 ・消防・救急体制の充実を図る				町民の生命・財産を守る	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 住宅用火災警報器の設置率	消防署調べ	%	77.05	68.0	63.0	70.0	67.0	90.0	
② 火災出動件数	消防署調べ	件	8	8	14	20	13	10	
③ 防火講習会・普通救命講習会参加者数	消防署調べ	人	2,603	1,200	165	388	676	2,200	
④									
成果指標設定の考え方	①1年7%上昇を目標として算出したもの。 ②近年の火災出動の動向を基に目標値を算出したもの。 ③自主防災組織数の増加による参加者増を見込んで算出したもの。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	376,801	419,210	367,411	353,633	412,639
人工数(業務量)					

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①既存住宅の住警器設置が進んでいない。 ②査察及びパトロール実施の結果、火災が減少した。 ③感染防止対策を講じたことで、受講者が増加した。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	新型コロナウイルス感染症に伴う感染防止対策を実施した結果、3つの成果指標の目標達成に向けた取り組みが縮小されたことで、目標値をクリア出来なかった。 消防・救急体制の充実を図るため、職場や災害活動における感染防止対策の強化、職員の知識や技術の向上、各種装備の更新を実施したことで、コロナ禍の厳しい状況下で消防の災害対応能力を低下させることなく活動できた。 総合的に勘案した結果、目標は概ね達成できた。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芽室消防署活動事業 芽室消防団運営事業 芽室消防施設整備事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・災害現場における消防職員の安全・迅速な活動を遂行するために必要な、被服や特殊装備の更新を計画的に実施し、各種講習会の受講、救急隊員病院実習及び消防学校専門課程の入学で得た知識を職員全体で共有し能力の向上を図った。 ・消防団の火災現場における安全・迅速な消火体制の構築を図るため、令和4年度から5か年計画で消防用ホースの更新を実施する。 ・芽室水槽1に積載している可搬ポンプが、運用から16年経過したことによる経年劣化や故障の発生により、運用に支障が出てきたことから可搬ポンプの更新を実施した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	新型コロナウイルス感染症防止対策による活動の縮小などで成果指標が達成されていないが、災害対応能力の向上を図り、出動体制を低下させることなく活動したことから、全体として維持した						
		A	B	C	D	E	
		進捗結果				○	

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化に伴う人口の減少と高齢者人口の増加。 ⇒救急出動に占める高齢者割合の高さと比例した救急出動件数の増加。 ⇒消防団員の定数確保と高齢化が課題。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芽室町及び近隣市町村の少子高齢化が進むことで救急出動件数は更に増加する。 ・65歳で定年を迎える消防団員が毎年度数名ずつ続くことから、新規消防団員確保の取り組みを強化する。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<p>《改善結果》</p> <p>消防団員の確保に関しては現職団員の推薦としているが、コロナ禍に伴い勧誘活動を控えたため定数の確保には至っていない。現在の団員数は昨年度と比較して1名増員されている。 令和5年度は、個人事業主や事業所へ積極的な勧誘活動を実施する。</p>

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ●防火講習会・普通救命講習の推進(芽室消防署活動事業) 役場関係部局と連携し、応急手当、火災や住警器など防災に関する総合的な講習会の開催を推進する。 ●住宅用火災警報器の設置促進と火災予防対策(芽室消防団運営事業) 高齢者世帯を住宅火災から守るため、支援の在り方について関係部局と協議を進める。 幼年消防クラブの活動を通じて、火災の恐ろしさや命の尊さを学び、大人になった際に防災や応急手当に関心を持った人材の育成を図る。 ●消防・救急体制の充実(芽室消防施設整備事業) 複雑多様化する災害に対応できる消防体制を構築するため、消防車両や各種資機材の整備・更新を計画的に進める。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	コロナ禍で活動や取組ができなかった部分があるものの、出動体制を低下させることがなかったため「維持した」と評価する。						
		A	B	C	D	E	
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	経営戦略会議(庁内評価)同様に「維持した」と評価する。						
		A	B	C	D	E	
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用火災警報器の電池切れに関する啓蒙活動も必要。 ・別の課で高齢者の住宅に訪問する際に、住宅用火災警報器の設置促進活動を合わせて行うなど、課をまたいで連携して進めてほしい。 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					